

設立趣意書

ウミガメの研究者はロガーを使用した追跡、DNA サンプルの解析による系群判別や遺伝子の解析や役割の解明、自記温度計を使用したふ化メカニズムの解明、保護団体が取得した産卵数の経緯を統計的に解析し、多くの論文を発表している。しかしその反面、それらの論文が保護団体の活動に反映されることはほとんどない。ウミガメ保護団体では産卵数の動向やふ化率を長期にわたり計数し、それが保護活動の主体となっている。

卵の移植は盗掘防止のために数十年にわたり世界規模で行われているが、移植が卵を守る最良の方法であるとの前提が存在し、その効果が検証されることはない。実際に、全卵移植している地域を調べてみると、産卵数が増加している繁殖地は世界中にどこにもなく、絶滅に瀕している繁殖地も多くみられる。

研究者側からみると、得意とする分野からの研究に従事し、大学の研究者は大学院生に論文ドクターを取得させるために、最長でも 4-5 年程度の短期間で研究論文を学会誌に掲載する必要がある。そのため、大学に所属する研究者は院生の教育や研究費取得に追われ自身の研究がなかなか進まない状況を作り出している。一方、保護団体は長期的に活動を行っているが、日々の活動において産卵巣の確認や卵の移植、資金獲得のために放流会や産卵見学などに追われ、それが実際のウミガメ資源の増加に役立っているか、再評価さえ行われていないのが実情である。

当団体は、ウミガメの基礎的な生態の解明を行い、研究者と保護団体がそれぞれ違った立場からウミガメの生態研究について議論し、これまでにない角度からの研究(ウミガメと地磁気との関係やプレートテクトニクスとウミガメ進化の関係)を行い、他の保護団体の活動を科学的に評価することを目的とする。

このように研究者と保護団体の実質的な協働を行うものとして、情報公開が義務付けられ、透明性や公平性が求められる特定非営利活動法人が適していると考え、当法人を設立しようとするものです。

令和 5 年 10 月 27 日

法人の名称 Sea Turtle Ecology Lab

設立代表者 菅沼弘行